

(3) 繊維産業

◆ 概要

京都市の繊維産業（注）は、平成19年工業統計調査結果報告（従業者4人以上の事業所）によると、事業所数は841所で、前回（平成18年）比較では、31所減少（対前回増加率△3.6%）している。従業者数は9,565人で、前回（平成18年）比較では、205人の増加（同2.2%）となっており、製造品出荷額等は1,052億25百万円で、前回（平成18年）比較では、5億55百万円の減少（同△0.5%）となった。

京都市の製造業に占める繊維産業の割合は、事業所数が27.0%、従業者数は12.9%、製造品出荷額等は3.7%となっている。

平成19年商業統計表によると、京都市の繊維・衣服等卸売業の商店数、従業者数、年間商品販売額は、それぞれ1,491店（構成比26.0%）、13,293人（同23.1%）、5,611億31百万円（同15.8%）となり、京都市の卸売業（業種中分類）中、商店数は1位であり、従業者数で2位、年間商品販売額で4位となっている。

このように、繊維産業は、本市産業の中で非常に重要な位置にあるものの、その変遷をみれば、工業統計表における繊維工業の産業中分類別製造品出荷額等の構成比は、昭和60年まで1位を維持していたが、昭和61年に飲料・たばこ・飼料に抜かれ、昭和63年に返り咲くものの、平成4年から14年連続の減少となり、平成19年では繊維工業は9位、衣服・その他の繊維製品製造業は16位となっている。

注 京都市の繊維産業と言え、西陣織や京友禅等、和装関連の産業がイメージされ、これらの産業の企業数や製造品出荷額等は、本市の繊維産業中大きな比重を占めていると推測される。しかし、現在実施されている統計では、産業分類の関係で明らかな数字は出てこない。そこで、これらの産業をも包含したものとして、工業統計調査における産業中分類の「繊維工業（衣類、その他の繊維製品を除く。）」と「衣服・その他の繊維製品製造業」

を合わせたものを京都市の繊維産業とする。

◆ 市内の繊維産業の特色

繊維産業の製造品出荷額等を産業細分類別に見ると、織物手加工染色整理業が209億61百万円（構成比19.9%）で最も多く、次いで絹・人絹織物業の151億74百万円（同14.4%）、和装製品製造業の114億35百万円（同10.9%）の順となっている〔表Ⅱ-3-3-1〕。

① 西陣機業

京都は古来より「織」の代表的な産地であり、意匠紋紙（いしょうもんがみ）、撚糸（ねんし）、糸染、整経（せいけい）、綜紬（そうこう）等の関連業種を擁し、帯、着尺（きじゃく）、金襴（きんらん）、ネクタイ等の生産センターである。

第18次西陣機業調査（西陣機業調査は、昭和30年以降、おおむね3年に1度実施される西陣機業の全数調査で、第18次は平成17年1月～12月を対象期間とした調査である。）によると、西陣機業では、生産の基礎となる企業数（調査票回収企業数）、織機台数（出機を含む。）及び従業者数（市内出機従業者を含む。）は、それぞれ479社、6,916台、4,402人であった。

昭和59年を100として比較すると、平成17年の数値は、企業数が56.4ポイント、織機台数が27.4ポイント、従業者数が31.9ポイントとなっており、大幅に減少していることが分かる〔表Ⅱ-3-3-2、図Ⅱ-3-3-1〕。

西陣機業の総出荷金額及び1企業当たりの平均出荷金額は、平成17年において、それぞれ約708億円、1.5億円であった〔表Ⅱ-3-3-3、図Ⅱ-3-3-2〕。

平成2年をピークに、その後はバブル経済の崩壊、消費の低迷、生活様式の変化による影響等から減少に転じていたが、前回（平成14年）対比で見ると、年間総出荷金額及び1企業当たりの平均出荷金額ともに、それぞれ約17%、約25%の増加を示している。この要因としては、大手企業の合併があったことや、近年、帯地を中心に中国などの国外生産のメリット

が弱まり、国内生産へ回帰し始めたこと等が挙げられる。

表Ⅱ-3-3-1 繊維産業の主な産業（細分類）別事業所数，従業者数，製造品出荷額等

（単位：所，人，百万円，％）

	事業所数		従業者数		製造品出荷額等	
		構成比		構成比		構成比
繊維産業	841	100.0	9,565	100.0	105,225	100.0
織物手加工業 染色整理業	254	30.2	2,257	23.6	20,961	19.9
絹・人絹 織物業	146	17.4	1,258	13.2	15,174	14.4
和装製品製造業	91	10.8	1,471	15.4	11,435	10.9
他に分類されない 繊維工業	50	5.9	485	5.1	5,364	5.1
絹・人絹織物 機械染色業	46	5.5	614	6.4	7,834	7.4
織物整理業	33	3.9	401	4.2	3,848	3.7
他に分類されない 繊維製品製造業	24	2.9	368	3.8	4,559	4.3
綿状繊維・糸 染色整理業	21	2.5	272	2.8	4,021	3.8
ニット・レース 染色整理業	19	2.3	300	3.1	4,097	3.9
刺しゅう業	17	2.0	117	1.2	738	0.7

資料：京都市総合企画局「平成19年工業統計調査結果報告（従業者4人以上の事業所）」

なお、細分類については主なものを取り上げている。

表Ⅱ-3-3-2 企業数・織機台数・従業者数の推移

（単位：社，台，人）

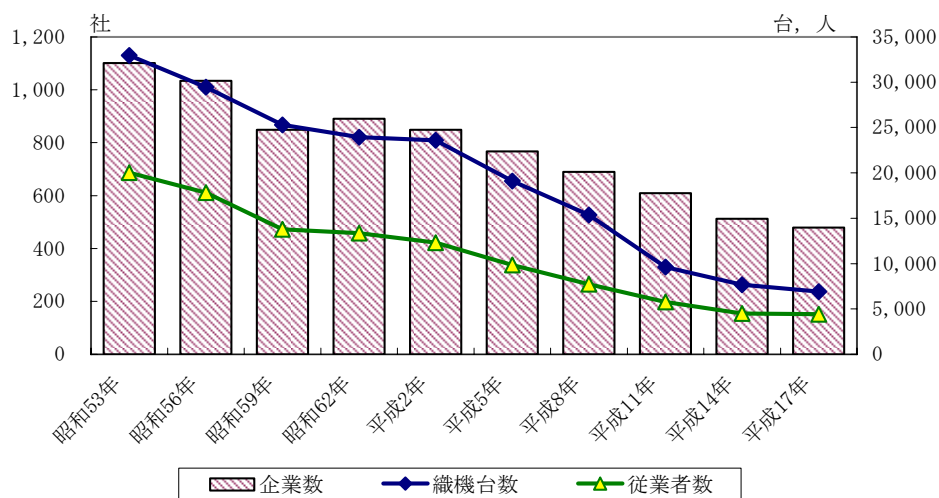
	企業数		織機台数		従業者数	
昭和53年	1,101	(129.7)	32,965	(130.4)	20,021	(145.2)
昭和56年	1,034	(121.8)	29,462	(116.5)	17,818	(129.2)
昭和59年	849	(100.0)	25,282	(100.0)	13,787	(100.0)
昭和62年	891	(104.9)	23,927	(94.6)	13,359	(96.9)
平成2年	849	(100.0)	23,595	(93.3)	12,307	(89.3)
平成5年	767	(90.3)	19,086	(75.5)	9,859	(71.5)
平成8年	690	(81.3)	15,351	(60.7)	7,738	(56.1)
平成11年	609	(71.7)	9,609	(38.0)	5,764	(41.8)
平成14年	512	(60.3)	7,676	(30.4)	4,500	(32.6)
平成17年	479	(56.4)	6,916	(27.4)	4,402	(31.9)

資料：第18次西陣機業調査委員会「西陣機業調査の概要」

注1 織機台数は出機を含み，従業者数は市内出機を含む。

2 （ ）内は昭和59年を100とした指数である。

図Ⅱ-3-3-1 企業数・織機台数・従業者数の推移



資料：第18次西陣機業調査委員会「西陣機業調査の概要」

表Ⅱ-3-3-3 総出荷金額及び平均出荷金額の推移

(単位：億円)

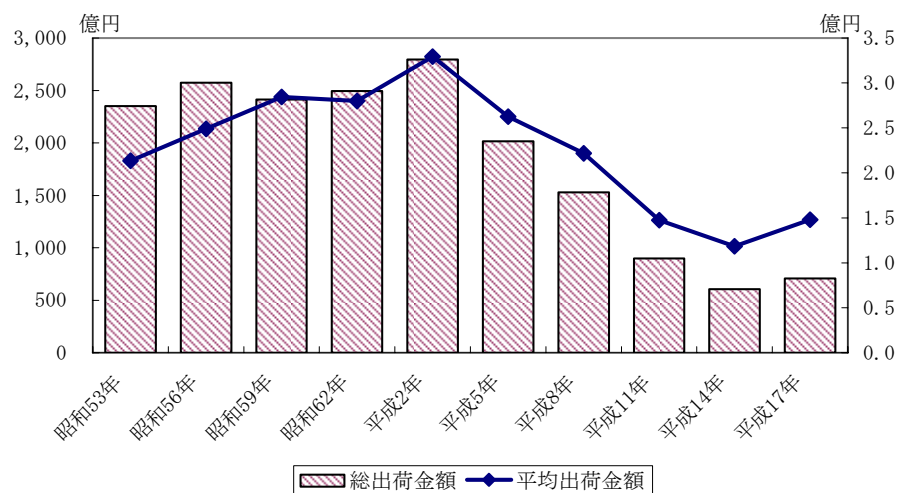
	総 出 荷 金 額	平 均 出 荷 金 額
昭 和 53 年	2,350 (97.3)	2.1 (75.1)
昭 和 56 年	2,574 (106.6)	2.5 (87.6)
昭 和 59 年	2,414 (100.0)	2.8 (100.0)
昭 和 62 年	2,493 (103.3)	2.8 (98.4)
平 成 2 年	2,795 (115.8)	3.3 (115.8)
平 成 5 年	2,014 (83.4)	2.6 (92.3)
平 成 8 年	1,529 (63.3)	2.2 (77.9)
平 成 11 年	898 (37.2)	1.5 (51.9)
平 成 14 年	606 (25.1)	1.2 (41.6)
平 成 17 年	708 (29.3)	1.5 (52.0)

資料：第18次西陣機業調査委員会「西陣機業調査の概要」

注1 平均出荷金額＝(総出荷金額÷企業数)

2 () 内は昭和59年を100とした指数である。

図Ⅱ-3-3-2 総出荷金額及び平均出荷金額の推移



資料：第18次西陣機業調査委員会「西陣機業調査の概要」

ア 西陣機業の業種別企業数

各企業の生産品種（単一品種を生産している場合は当該品種〔業種〕に分類されるが、2 品種以上生産している場合には最も出荷金額の多い品種〔業種〕に分類され、前者を専業企業、後者を兼業企業と呼ぶ。）を基準にその構成を見ると、帯地を生産する企業が 313 社（構成比 65.3%）で最も多く、次いで金襴の 71 社（同 14.8%）、きものの 40 社（同 8.4%）となっており、これら伝統部門（帯地、金襴、きもの）の企業がおおよそ 9 割を占めている。これに対して、新興部門（ネクタイ、肩傘、広巾服地、室内装飾織物）に属する企業は少なく、ネクタイ等の明治以降に生産の始まった新興部門は、その他を含めても 1 割程度を占めるに過ぎない〔表Ⅱ-3-3-4〕。

＊金襴とは、金糸を織り込んだ織物の総称。禅僧の錦の袈裟を金襴衣といい、我が国が輸入した金襴衣に金箔糸が織り込んであったので、その織物を金襴と呼んだ。

イ 西陣機業の織機台数の推移

西陣機業では、高度経済成長の終わる昭和 40 年代後半以降、織機台数は内機*、出機*ともに減少を続けながら、出機は特に丹後への依存を強めてきた。第 18 次西陣機業調査によると、平成 17 年末の総織機台数は 6,916 台であり、平成 14 年対比で 9.9%の減少となっている。総台数に占める京都市内の織機台数の割合は、平成 2 年に 33.2%まで低下、その後増加傾向にあったが、平成 17 年に再び低下して 37.8%と 4 割を下回った〔表Ⅱ-3-3-5、図Ⅱ-3-3-3〕。

＊内機（うちばた）とは、織物製造業者が自家工場 で製織する生産形態であり、出機（でばた）とは、内機に対する用語として、織物製造業者が他の機屋へ原料等を支給し、工賃を支払って製織依頼する生産形態である。

ウ 西陣機業の職種別従業者数

平成 17 年の従業者（企業主とパートタイマーを除く。）を職種別に見ると、内機従業者数は 3,442 人で、前回（平成 14 年）より 226 人の増加（対前回増加率 7.0%）であった〔表Ⅱ-3-3-2、表Ⅱ-3-3-6〕。

一方、市内の出機従業者は 960 人で、前回（平成 14 年）より 324 人の減少（同△25.2%）となっている。

次に、内機従業者の内訳を見ると、事務・営業は、1,934 人となり、前回（平成 14 年）よりも 134 人の減少（対前回増加率△6.5%）となっている。間接工は、725 人と前回（平成 14 年）より 511 人の大幅増加（同 238.8%）となっている。また、ウィーパー（織手）は、783 人と前回（平成 14 年）より 151 人の減少（同△16.2%）となっている。

なお、間接工が大幅に増加しているのは、大企業による調査対象地域外の企業との合併や事務所の統合など、一部企業の動きが反映されたものと推察され、この特異事情を考慮すれば、実態としては、製織に直接かかわっている間接工も、相当に減少していると思われる〔表Ⅱ-3-3-6、図Ⅱ-3-3-4〕。

エ 西陣機業の品種別出荷金額

平成 17 年の品種別出荷金額を見ると、帯地が 340 億 23 百万円（対前回（平成 14 年）増加率 6.3%）で最も多く、次いで、室内装飾織物の 256 億 51 百万円（同 43.2%）、金襴の 48 億 22 百万円（同 25.9%）、きものの 28 億 92 百万円（同 8.2%）、ネクタイの 23 億 85 百万円（同△14.9%）と続いており、室内装飾物が大きく増加している。対して、新興部門の肩傘と広巾服地は、前回（平成 14 年）に引き続き減少しており、前回（平成 14 年）対比でそれぞれ 50.8%減、66.2%減という深刻な状況となっている。また、広巾裂地は、平成 17 年に出荷金額がゼロとなった〔表Ⅱ-3-3-7〕。

表Ⅱ-3-3-4 業種別企業数

(単位：社，%)

品 種 (業 種)	企 業 数	構 成 比
帯 地	313	65.3
き も の	40	8.4
金 襦	71	14.8
ネ ク タ イ	29	6.1
肩 傘	3	0.6
広 巾 裂 地	0	0.0
広 巾 服 地	0	0.0
室 内 装 飾 織 物	3	0.6
そ の 他	20	4.2
合 計	479	100.0

資料：第18次西陣機業調査委員会「西陣機業調査の概要」

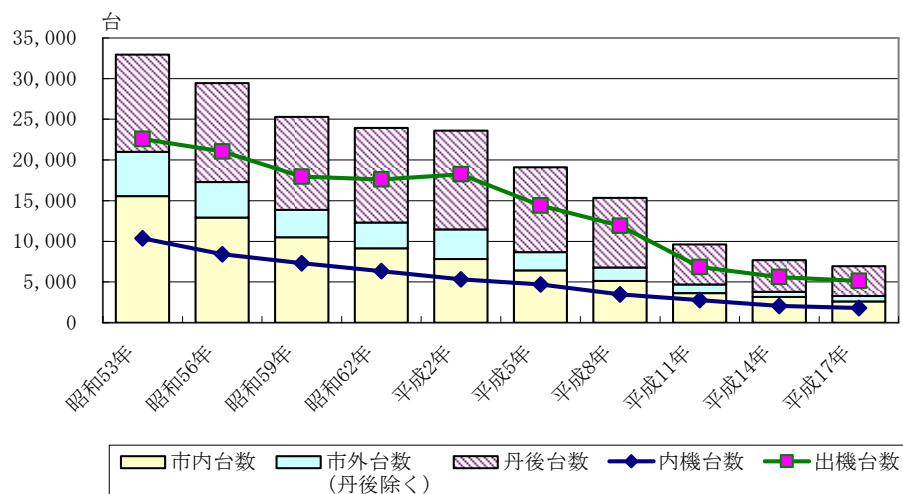
表Ⅱ-3-3-5 総織機台数・主要形態別台数の推移

(単位：台)

	総 台 数	内 機 台 数	出 機 台 数	市 内 台 数	市 外 台 数 (丹後除く)	丹 後 台 数
昭 和 53 年	32,965	10,369	22,596	15,569	5,447	11,949
昭 和 56 年	29,462	8,409	21,053	12,908	4,396	12,158
昭 和 59 年	25,282	7,313	17,969	10,495	3,374	11,413
昭 和 62 年	23,927	6,320	17,607	9,124	3,201	11,602
平 成 2 年	23,595	5,339	18,256	7,823	3,651	12,121
平 成 5 年	19,086	4,691	14,395	6,436	2,225	10,425
平 成 8 年	15,351	3,457	11,894	5,130	1,632	8,589
平 成 11 年	9,609	2,788	6,821	3,635	1,067	4,907
平 成 14 年	7,676	2,061	5,615	3,164	620	3,892
平 成 17 年	6,916	1,795	5,121	2,616	665	3,635

資料：第18次西陣機業調査委員会「西陣機業調査の概要」

図Ⅱ-3-3-3 総織機台数・主要形態別台数の推移



資料：第18次西陣機業調査委員会「西陣機業調査の概要」

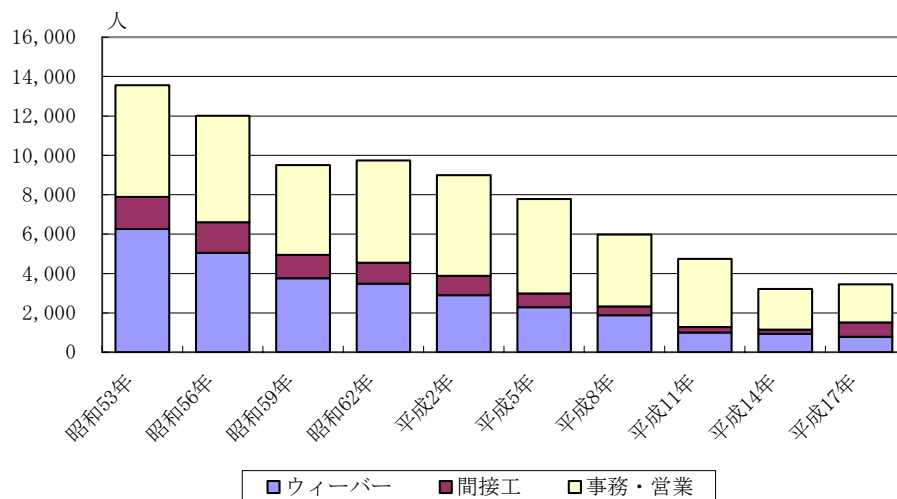
表Ⅱ-3-3-6 内機従業者の職種別従業者数の推移

(単位：人)

	ウィーバー	間 接 工	事務・営業	総 数
昭 和 53 年	6,270	1,615	5,676	13,561
昭 和 56 年	5,056	1,551	5,403	12,010
昭 和 59 年	3,753	1,190	4,562	9,505
昭 和 62 年	3,481	1,057	5,196	9,734
平 成 2 年	2,900	972	5,118	8,990
平 成 5 年	2,279	705	4,790	7,774
平 成 8 年	1,874	450	3,659	5,983
平 成 11 年	1,008	272	3,452	4,732
平 成 14 年	934	214	2,068	3,216
平 成 17 年	783	725	1,934	3,442

資料：第18次西陣機業調査委員会「西陣機業調査の概要」

図Ⅱ-3-3-4 内機従業者の職種別従業者数の推移



資料：第18次西陣機業調査委員会「西陣機業調査の概要」

表Ⅱ-3-3-7 品種別出荷金額

(単位：千円，%)

品 種 (業 種)	出 荷 金 額	平 成 14 年 対 比	構 成 比
帯 地	34,023,088	106.3	48.1
き も の	2,891,963	108.2	4.1
金 欄	4,822,388	125.9	6.8
ネ ク タ イ	2,384,579	85.1	3.4
肩 傘	40,885	49.2	0.1
広 巾 裂 地	—	—	—
広 巾 服 地	16,905	33.8	0.0
室 内 装 飾 織 物	25,650,864	143.2	36.2
そ の 他	975,020	82.4	1.4
合 計	70,805,692	116.8	100.0

資料：第18次西陣機業調査委員会「西陣機業調査の概要」

② 京友禅業

平成20年度分（平成19年12月1日～平成20年11月30日）の京友禅京小紋生産量調査報告書によると、京友禅（京小紋を含む、以下同じ）の総生産量は618,573反で、前年比10.5%増となっている。これは、平成20年度分調査より生産規模の大きい2企業が調査対象となったことが要因である。京友禅の総生産量は、昭和46年の16,524,684反をピークに、その後は毎年減少を続け、昭和43年を100とした場合の平成20年度の生産量は、5.3%にまで落ち込んでいる〔表Ⅱ-3-3-8、図Ⅱ-3-3-5〕。

染色加工技術別に見ると、機械捺染が258,238反（構成比41.7%）、インクジェットが20,838反（同3.4%）、型染が245,848反（同39.7%）、手描染（ろうけつ染を含む）が93,649反（同15.1%）となっている。前年と比較して、型染は22.2%減、手描染（ろうけつ染を含む）は3.5%減となったが、調査対象の変更により機械捺染は94.2%増、インクジェットは51.3%増と大幅に増加している。

流通形態別に見ると、仕入染が605,573反で前年比10.7%増、誂染（あつらえぞめ）が13,000反で前年比1.3%増となっている。

品目別では、着尺が299,646反（構成比48.4%）で最も多く、次いで振袖の123,398反（同19.9%）、長襦袢の69,617反（同11.3%）、訪問着の40,266反（同6.5%）、肩裏の16,322反（同2.6%）と続いている〔表Ⅱ-3-3-9、図Ⅱ-3-3-6〕。

③ 室町卸売業

京都は繊維製品の一大集散地であるばかりではなく、京友禅業者に染加工を発注する染加工元卸、白生地卸等の集積も見られる。

和装染織製品の主たる集積地としては、京都、東京、名古屋、大阪の4都市が著名である。他の3都市が製品の収集と取り揃えを主たる機能とする前売問屋の集積地であるのに対して、京都市の室町卸売業には、前売問屋、染加工問屋、白生地問屋という機能を異にする3種の問屋が集積し、それぞれが一連の流通システムの中核をなしている。

また、京都産以外にも、全国の和装染織製品の集散地ともなっており、京都市は、今なお我が国屈指の総合和装供給基地に違いはない。

平成19年「組合員の業態」（京都織物卸商業組合）によると、業種・業態別に見る商社数は、和装関係が164社（構成比78.1%）で最も多く、次いで洋装関係の29社（同13.8%）、ホームファッション卸の15社（同7.1%）と続いている〔表Ⅱ-3-3-10〕。

また、平成19年商業統計表によると、繊維・衣服等卸売業の事業所数、従業者数、年間販売額は平成14年比で、それぞれ14.9%、15.0%、12.8%の減少率となっており、繊維工業を上回る水準で縮小している。

特に近年は、社歴を誇る老舗企業、売上規模上位の有力企業などの別を問わず、企業淘汰の波が激しく室町業界に押し寄せている。

④ テキスタイル産業

京都のテキスタイル産業は、市内染色業が培った技術を基に、プリント服地の生産に特化し、「京プリント」の名声を博している。

京染・京友禅業の染色、加工技法の流れを汲むテキスタイル産業は、やがてプリント服地の生産に重点を移し、現在に至っている。

京プリントの販売先別数量を見ると、昭和40年代前半までは、「切り売り」、「百貨店」、「地方卸」といった伝統的な流通チャンネルが主流であったが、現在では、第44回京プリント服地年間取扱調査資料集計表（平成19年8月1日～平成20年7月31日）によると、アパレルメーカーに78.8%を依存し、以下仲間筋に18.1%、切り売り・オーダー店に2.5%、地方卸に0.5%となっており、ファッション業界への素材提供産業へと脱皮したことがうかがえる〔表Ⅱ-3-3-11、図Ⅱ-3-3-7〕。

また、加工別数量を見ると、労働集約的な手捺染から大量生産に適した自動スクリーンへと重点を移してきており、自動スクリーン71.2%、手捺染15.3%、機械捺染8.9%、その他4.6%となっている〔表Ⅱ-3-3-11、図Ⅱ-3-3-8〕。

表Ⅱ-3-3-8 加工技術別生産数量の推移

(単位：反)

	型 染 友 禅	手 描 友 禅	機 械 捺 染	合 計
平成11年度	550,937 (5.1)	188,732 (10.1)	435,612 (124.2)	1,175,281 (10.0)
平成12年度	494,311 (4.0)	178,788 (10.2)	409,633 (83.6)	1,082,732 (9.2)
平成13年度	388,422 (3.9)	181,138 (10.5)	275,776 (86.1)	845,336 (7.2)
平成14年度	377,420 (3.9)	185,907 (10.5)	283,967 (86.1)	847,294 (7.2)
平成15年度	372,549 (3.9)	183,062 (10.3)	285,148 (86.4)	840,759 (7.2)
平成16年度	417,565 (4.3)	166,530 (9.4)	312,571 (94.8)	896,666 (7.7)
平成17年度	378,860 (3.9)	165,604 (9.3)	285,895 (86.7)	830,359 (7.1)
平成18年度	361,447 (3.8)	140,942 (7.9)	240,880 (73.0)	743,269 (6.3)
平成19年度	316,034 (3.3)	97,092 (5.5)	146,781 (44.5)	559,907 (4.8)
平成20年度	245,848 (2.6)	93,649 (5.3)	279,076 (84.6)	618,573 (5.3)

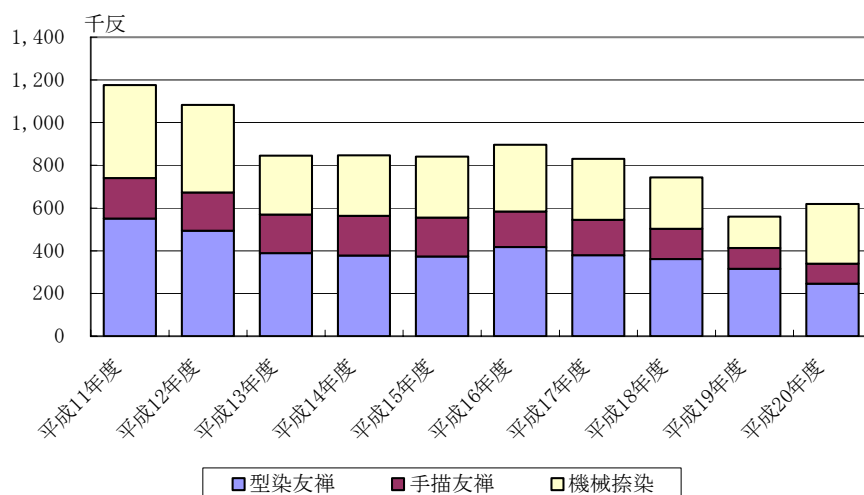
資料：京友禅協同組合連合会「京友禅京小紋生産量調査報告書」

注1 () 内は昭和43年を100とした数値である。

2 「手描友禅」にはろうけつ染めを含む。

3 平成19年度から「機械捺染」にはインクジェットを含む。

図Ⅱ-3-3-5 加工技術別生産数量の推移



資料：京友禅協同組合連合会「京友禅京小紋生産量調査報告書」

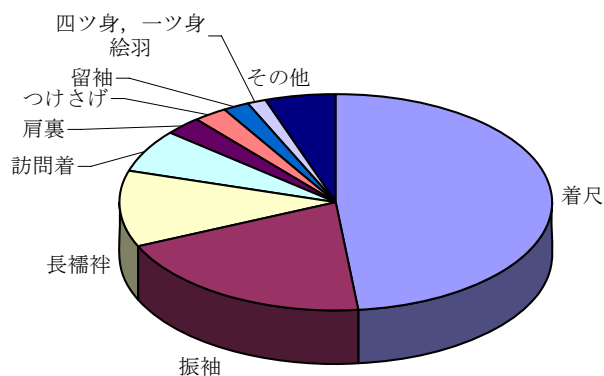
表Ⅱ-3-3-9 品目別生産数量（平成20年度）

（単位：反）

	反 数	構 成 比
着 尺	299,646	48.4
振 袖	123,398	19.9
長 襦 袢	69,617	11.3
訪 問 着	40,266	6.5
肩 裏	16,322	2.6
つ け さ げ	15,364	2.5
留 袖	13,159	2.1
四ツ身，一ツ身 絵羽	8,425	1.4
そ の 他	32,376	5.2
合 計	618,573	100.0

資料：京友禅協同組合連合会「京友禅京小紋生産量調査報告書」再編加工

図Ⅱ-3-3-6 品目別生産数量（平成20年度）



資料：京友禅協同組合連合会「京友禅京小紋生産量調査報告書」

表Ⅱ-3-3-10 業種・業態別に見る商社数と構成比

（単位：社，%）

業 態 別		業 種 別	商 社 数	構 成 比
和 装 164社, 78.1%	前 売	呉 服 前 売 卸	69	32.9
	85社, 40.5%	和装製品前売卸	16	7.6
	仲 間	染 呉 服 製 造 卸	61	29.0
	79社, 37.6%	和 装 製 品 元 卸	18	8.6
洋 装 29社, 13.8%		テキスタイル卸	13	6.2
		ア パ レ ル 卸	16	7.6
ホ ー ム フ ァ ッ シ ョ ン 卸			15	7.1
そ の 他 卸			2	1.0
合 計			210	100.0

資料：京都織物卸商業組合「平成19年組合員の業態」

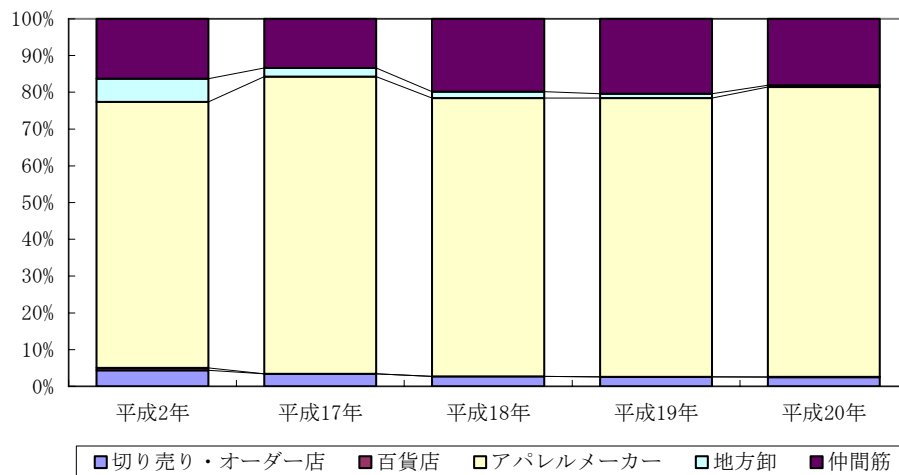
表Ⅱ-3-3-1 1 プリント服地の販路と加工法の構成比の推移

(単位：％)

		平成2年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
販売先別	切り売り・オーダー店	4.4	3.4	2.7	2.6	2.5
	百貨店	0.6	0.0	0.0	0.0	0.1
	アパレルメーカー	72.4	81.0	76.0	75.8	78.8
	地方卸	6.3	2.4	1.7	1.2	0.5
	仲間筋	16.3	13.4	19.9	20.4	18.1
加工別	手捺染	21.3	21.3	12.8	13.1	15.3
	自動スクリーン	59.5	70.6	75.7	74.5	71.2
	機械捺染	17.5	3.9	6.5	8.0	8.9
	その他	1.7	4.2	5.0	4.5	4.6

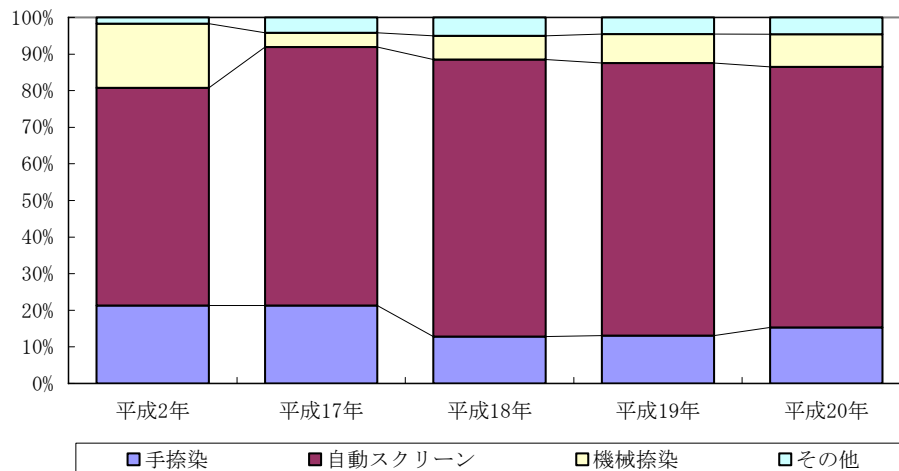
資料：京都織商京プリント振興会「京プリント服地年間取扱調査資料集計表」

図Ⅱ-3-3-7 プリント服地の販路の推移



資料：京都織商京プリント振興会「京プリント服地年間取扱調査資料集計表」

図Ⅱ-3-3-8 京プリントの加工別数量構成比の推移



資料：京都織商京プリント振興会「京プリント服地年間取扱調査資料集計表」